



名立区 地域協議会だより

【第44号】2022年3月25日発行

発行：名立区地域協議会
編集：協議会だより編集委員
事務局：名立区総合事務所
総務・地域振興グループ
電話：025-537-2121



視察研修を実施しました

12月8日に協議会委員10人で視察研修を実施しました。

今年度は委員から希望のあった「移住者との意見交換」「中山間地域農業の実態と課題解決」「市新規施設の見学」「地域を元気にするために必要な提案事業を実施した頸城区に学ぶ」を踏まえ、次のとおり研修を行いました。

● ● ● 行 程 ● ● ●

(1)農家民宿 うしだ屋（大島区田麦）

・移住者で農家民宿を営む牛田さんと意見交換

(2)雪中貯蔵施設「ユキノハコ」（安塚区樽田）

・令和3年3月にオープンした新規施設の視察

(3)坂口記念館（頸城区鶯ノ木）

・坂口謹一郎博士ゆかりの地を訪ねる

(4)くびきのレールパーク（頸城区百間町）

・NPO法人くびきのお宝のこす会の活動を学ぶ

(5)大池いこいの森ビクターセンター（頸城区日根津）

・地域を元気にするために必要な提案事業の実施経緯等について



牛田さんと意見交換の様子



坂口記念館での様子

視察研修に参加して

大門 廣文

初めて参加した研修会では多くの学びがありました。

大島区では、移住してご夫婦の夢を合体させた「農家民宿うしだ屋」を営んでいる牛田さんと意見交換を行いました。移住した土地で根を張っている姿（子育ても含め）が印象的で、奥さんの「折角雪が降るなら積雪量は一位がいい」と言っていたのが、我々が思う雪のマイナスイメージと違ってハツとしました。

意見交換では、若者を農業に巻き込む方法として、若者が得意とするITを切り口に「ネットで米を販売してみてくれないか」と誘ってみるという手法が新たな気付きとなりました。

頸城区の坂口記念館では、酒の博士といわれた坂口謹一郎博士が、日本初の国産ワイン生産のきっかけとなる酵母を発見されたと聞いて、博士が残した敷地内に咲く約190本の雪椿に、岩の原ワインの雪椿のラベルが重なるって見えました。

他区を視察して学んだこと

二宮 香里

今回の視察研修は、コロナ禍以降、他地域への視察研修が難しかったことを取り戻すかのような盛りだくさんの内容でしたので、その一部を紹介いたします。

安塚区の雪中貯蔵施設ユキノハコでは、まだ中に昨年の雪があり、米・蕎麦・野菜などが貯蔵されていました。不動地区も雪が多いので、もう少し簡易な施設なら名立区でも作れないかと思いました。

頸城区の大池いこいの森ビクターセンターでは、頸城区総合事務所長から、「地域を元気にするために必要な提案事業」の提案に至るまでの経緯を伺いました。なお、過去にこの事業を活用したのは頸城区地域協議会だけです。

事業提案においては、くびきのレールパークや坂口記念館、瀧本邸などの名家や大池いこいの森などの魅力的な頸城区の資源をもっと発信し、観光に力を入れたらという思いを持った団体が多かったことから、提案にまとめることができたことでした。

普段他の地区の取組を目にする機会がないので大変勉強になりました。

今年度地域活動支援事業に採択した事業を紹介します！

名立区の魅力を創造し発信する事業

NPO法人
名立の100年後を創造する会の活動紹介

増田 和昭



当会は名立の豊かな自然と伝統・文化を掘り起こして活用することで「100年先のすばらしい名立」＝「名立ブランド」を創造し活性化につなげることを目的に、平成27年10月に立ち上げました。

具体的な活動についてご紹介します。一つ目は、名立谷浜IC前の斜面に水仙の球根を約1万球植えておもてなしの黄色い花を咲かせたり、広場に50本の桜を植えたりして、新しい名立の名所をめざしています。

二つ目は、宇山の山桜を手入れし、美しく咲いた山桜をチラシにして首都圏やお隣の長野県にPRしています。加えて、宝田小学校4年生の宇山観察会のお手伝いや、宇山整備の体験会なども行っています。

三つ目は、謙信公祭の初日に謙信公の軍旗「毘」と「龍」を掲げて、旧山海荘付近で狼煙上げを行います。

四つ目は、「撮って発見 名立の魅力」というテーマで写真コンテスト及び写真展を行っています。コンテストの前にはプロの写真家を講師にした撮影指導会も行っています。

今後とも名立区の活性化のために活動してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。



名立小泊機雷爆発地慰霊碑・供養地蔵保存伝承事業

機雷爆発地の地蔵堂保存と伝承事業

奥田 裕久

昭和24年3月30日の春休み。名立小泊の海岸に機雷が流れ着き、大爆発を起こした結果、小中学生43人、幼児を含む63人が一瞬にして亡くなりました。この悲劇を後世に伝えるため、名立漁港に地蔵堂があります。昨年の1月9日の冬季強風により半壊しました。



地蔵堂は、名立区民の「平和を願う」象徴であり、毎年小学生や教員が平和学習で訪れる「学習の場」となっていることから、復旧を望む声の名立小泊に寄せられました。検討の結果、機雷爆発による犠牲者が多い地区であることから、名立小泊で改築することとし、費用は市の地域活動支援事業を活用しました。73年前に起きた戦後の悲惨な事件を地域で継承していくため、老人クラブや小泊子供会で学習会を開催するとともに、昨年の12月には地蔵堂完成に合わせ機雷爆発犠牲者の供養式を無事開催することができました。皆さんも機会があれば、日本海を背に夕日に染まる地蔵堂に手を合わせてください。



協議会委員の訃報について

草間照光委員が、令和5年2月25日に逝去されました。
草間委員は平成28年4月に委員となり、改選を経て2期目の委員として、名立区の地域活性化のために尽力されました。
ここに哀悼の意を表し、謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

コロナ発生から3年が経った。今は当初より緊張感が薄れているが、まだまだ患者も多い。人々の生活感も大きく変わった。今までの人生で初の体験である。

5月から、国は分類を「5類に引き下げる」とのことだが、以前の様な生活に戻れるかどうかは不透明だ。

さて雪だが、今年は例年より少なく、大変助かっている。雪が溶けて、春の恵みを楽しみに、毎日を過ごしている今日この頃である。

(編集委員 高宮 秀博)

